No.200
2023.3.20

愛知 図書館協会々報

編集・発行
愛知図書館協会
名古屋市中区
三の丸1−9−3
愛知県図書館内

特集　図書館団体による職員研修

図書館団体には館種・地域を越えた総合的な団体のほか、館種別や地域別に多くの団体が組織されており、愛知県にもこの地方の図書館を会員とする協会や協議会が複数存在している。

図書館団体の目的・役割は、図書館活動の振興、図書館サービスの維持や向上であり、そのための事業として、講習・研修事業、調査・研究、会員相互の連携や情報交換などを行っている。中でも研修はその比重、要望が大きい事業である。図書館での働き方が多様化するとともに、予算・人員の状況も厳しくなる中で、単館での講習やOJTだけでは時代に即した多様な研修の実施は難しく、図書館団体で行う研修の必要性は日々高まっている。

今回の会報では、愛知県および東海地区の図書館関係団体で行われている研修事業に焦点をあてた。当会報でも平成14（2002）年度の研修事業再編以降、171号、173号、181号の３度にわたり研修会を特集したほか、毎号の会報でも研修内容を紹介してきた。今号では、愛知図書館協会で行われている研修紹介のほか、県内の団体で実施している研修についても各団体から御寄稿いただいた。御協力いただいた関係団体の皆様に深く感謝する。

愛知県内の主な図書館団体

種類	団体名	会員
総合	愛知図書館協会	愛知県内の図書館（公共、大学、専門、その他）、個人会員、賛助会員
公共図書館	愛知県公立図書館長協議会	愛知県内の公立図書館長
	尾張部公共図書館連絡協議会	尾張地区の公共図書館等
	三河公立図書館協議会	三河地区の公立図書館
大学図書館	東海地区大学図書館協議会	東海地区の大学図書館（国公立、私立）
	私立大学図書館協会西地区部会 東海地区協議会	愛知、岐阜、三重、三県の私立大学図書館協会加盟館

愛知図書館協会の研修

■愛知図書館協会

愛知図書館協会（以下協会）は図書館法制定と同年の昭和25（1950）年に創設された図書館団体で、施設会員（公共図書館・大学図書館・専門図書館その他）、個人会員および賛助会員で構成されている。図書館以外に、図書室・資料室等の施設や、協会の趣旨に賛同し図書館に関心のある個人でも加入できるのが特徴である。現在の体制となったのは平成14（2002）年度、長らく会員であった学校図書館関係の２団体（愛知県学校図書館研究会、名古屋市学校図書館研究会）が相次いで分離独立したことにより組織の再編と事業の見直しが行われ、研修事業も一新されることとなり、それまで行われてきた大人数・講演会形式の講習会に替え、新たに少人数の連続研修を複数実施することが提案された。その際に柱となったのが「児童サービス研修」および「レファレンスサービス研修」で、この２つの研修は内容の変遷を経て現在も引き続き行われている。現在協会では、年間４～５種程度の研修を行っており、少人数で実習をともなう研修と大人数・講演会形式の研修の両方が実施されている。また、新型コロナウイルス感染症が流行し生活様式が一変した令和２（2020）年度以降は、オンライン等の通信形式も取り入れつつ、研修事業を継続して行っている。

■研修の企画

協会の研修は、施設会員館から選出された委員で構成される研修委員会で計画を行い、児童サービス研修については研修委員から委嘱を受けた児童サービス研修実行委員が科目や講師の選定など具体的な計画をまとめている。研修委員会は現在、公共図書館（愛知県・名古屋市・尾張地区・三河地区）、大学図書館、専門図書館・その他の館種から選出された委員で構成され、館種・地域の異なる委員からテーマや講師を提案いただくことで、多様な研修の実現に寄与している。

■研修の種類

平成14（2002）年度以降、主に行われている少人数研修は（1）児童サービス研修、(2）レファレンスサービス研修、(3）資料保存研修、(4）IT系研修の４種である。これに加え、講演会形式の拡大講座も開催し、多くの会員が参加できるようにしている。研修受講者には毎回アンケートへの協力をお願いしており、内容の評価、感想・意見などを講師・委員にフィードバックするとともに次回以降の研修の参考としている。

近年、講義形式の研修については録画配信等の方法を取り入れることで、より多くの会員の受講や、時間・場所を問わない参加が可能となった。集合研修に出向くことが難しい少人数の職場などからも参加が容易になったほか、自分の都合のよい時間に受講できるとして歓迎する声も上がっている。

(1）児童サービス研修

全４回の連続講座として開催。概論から実践までを幅広く扱い、現在児童サービスに携わっている経験の浅い司書が即実践に活かせるよう工夫されたカリキュラムで、この講座を受講すれば児童サービスの基本がひととおり学べる構成になっている。令和４（2022）年度の科目は表のとおり。内容・科目は変遷があるが、公共図書館の繁忙期である夏休みの開催を避けて、６～７月に前半２回、９～10月に後半２回の全４回という日程で行っている。ほぼすべての科目で事前課題を課していることもあり、連続した日程ではなく１カ月に１回ペースで間を空け実施。定員は20名であったが、令和２（2020）年度の中止をはさみ、令和３（2021）年度は定員を半数の10名として再開、令和４（2022）年度は12名での実施となった。児童サービスは読み聞かせやわらべうたなど発声・実演をともなう科目も多く、通信での研修が難しい。そのため現在もすべて集合研修として対面で行う形式を取っている。常に定員を超える応募があり、需要の高さが窺える。

令和４年度　児童サービス研修（連続講座）

回	科目（内容）	講師（敬称略）
第１回 6/23（木）	オリエンテーション	児童サービス研修実行委員、講師、事務局
	児童サービスとは	神谷美恵子（安城市図書情報館）
	知識の本の選書とレファレンス	岩月ゆり・浦野唯（愛知県図書館）
第２回 7/8（金）	絵本について	金子愛（名古屋市千種図書館）
	絵本の読み聞かせ	児玉陽子（名古屋市守山図書館）
	紙芝居について	道山由美（紙芝居文化の会）
第３回 9/9（金）	小さい子のおはなし会とわらべうた	小此木ひとみ（名古屋市鶴舞中央図書館）
	幼年文学から児童文学への橋渡し	杉山郁子（長久手市中央図書館）
第４回 10/27（木）	おはなし会をやってみよう（おはなし会プログラムの作成と実演）	市川祐子（安城市図書情報館）
	ストーリーテリング	川島桂子（名古屋市天白図書館）
	ブックトーク	野々川佳代（名古屋市熱田図書館）
	反省会	児童サービス研修実行委員

（特別講座）

実施日	科目・内容	講師（敬称略）
6/16（木）	講演：「子どもと本をつなぐ」ために取り組んできたこと	大島由美子（名古屋市中川図書館）

（ステップアップ研修：紙芝居）

12/9（金）	内容：紙芝居実演　実習、講評	アドバイザー 道山由美（紙芝居文化の会）

平成30（2018）年度までは連続講座のうち１コマを講演会形式の拡大講座とし、連続講座の受講者以外も参加できるようにしていたが、現在は中止しており、令和４（2022）年度は連続講座とは別に特別講座として講演会を開催した。

また、連続研修を受講した者から中級以上の講座への要望が多く寄せられ、平成26（2014）年度に「ステップアップ研修」がスタートした。これはテーマを決めた半日の講座で、研修の中心は実演と受講者同士で批評しあうことであり、それに対して経験豊富な職員がアドバイザーとして助言するという形式のもの。平成26（2014）～29（2017）年度はブックトーク、平成30（2018）年度からは紙芝居をテーマに行っている。

(2）レファレンスサービス研修

令和元（2019）年度までは複数日の連続講座として開講。初・中級者向けの講義と演習を組み合わせた実践的な研修で、児童サービス研修と同様に多くの科目で事前課題を課している。対象を初・中級者としたため、受講者の習熟度にバラツキが大きいのが従前の

課題であったが、コロナ禍となった令和２（2020）年度は初級と中級に分け音声配信・動画配信による通信研修として実施、以後は講義形式の研修と、少人数の演習（通信形式）に分けて開催している。講義形式の研修は録画配信等の方法で多人数が受講できるようにしている。演習は少人数がゆえのきめ細かい指導が好評を博しており、演習課題については他の受講者の回答も配付されるため、同じ課題に対するアプローチや使用資料等の違いも参考になるとの感想が多い。

令和元年度　レファレンスサービス研修

回	科目	講師（敬称略）
第1回	オリエンテーション	
	レファレンス概論	松森隆一郎（愛知県立大学）
	文系のレファレンス	足立祐輔 （愛知学院大学非常勤講師）
第2回	地域のレファレンス	山田大輔 （名古屋市鶴舞中央図書館）
	レファレンス・プロセス評価	齊藤誠一 （千葉経済大学短期大学部教授）
第3回	医療・健康情報のレファレンス	中島ゆかり（一宮西病院）
	レファレンス・ツールの評価	吉田昭子 （文化学園大学現代文化学部教授）
	情報交換会	

令和４年度　レファレンスサービス研修

	科目・内容	講師（敬称略）
拡大講座	講演：「図書館ファン」をつくる「提案型レファレンス」のすすめ　―利用者とのコミュニケーション術から、要望以上の結果の出し方まで	入矢玲子 （中央大学非常勤講師）

演習（通信講座）	医療・健康情報のレファレンス	齊藤誠一 （千葉経済大学短期大学部教授）
	医療・健康情報のレファレンス	中島ゆかり（一宮西病院）
	芸術分野のレファレンス	山本宗由 （愛知学院大学非常勤講師）

令和元（2019）年度と令和４（2022）年度の開講科目を表に示した。多科目・複数日の連続研修と、科目ごとに通信で受講できる演習とでは、一長一短があり、どのような方法で行っていくかは今後の課題である。

(3) 資料保存研修

図書の構造と補修の技術などを学ぶ資料保存研修は、実習をともない即役立てられる講座とあって特に人気が高い。具体的な補修の方法を学ぶことはもちろんだが、保存の意義、費用と効果の見極めといった理論的な講義は、なぜ補修するのか、どこまで補修するのかをまず考え、構造を理解した上で補修に繋げていくという資料保存の根本を理解するという意義も大きい研修となっている。

平成30（2018）年度からは危機管理研修との隔年開催としたが、実習が密になるため令和３（2021）年度は書画カメラで講師の手元を映して実演を見学することで実習に替えた。録画での配信も行い多人数が受講できたが、実習を望む声は多く、社会的状況を踏まえつつ実習を含む研修を再開することが今後の課題である。また、タナカ（製本会社）の協力を得て、完成する前の状態の製本見本を作製した。研修時に使用するほか会員館への貸出等の活用も計画中である。

このほか、これまでに開催した実務研修としては広報研修（チラシ・ポスターの作製）、危機管理研修（リスクマネジメント、クレーム対応）などがある。

令和３年度　資料保存研修の様子

(4) ＩＴ系研修

図書館運営に欠かすことのできなくなった情報機器やネットワーク等の知識を学ぶ研修として平成14（2002）年度にスタート。愛知淑徳大学の協力で、実際に端末を使用しての実習を中心とした研修が実現した。科目は変遷があるが、ネットワークやホームページ、データベース、図書館評価に応用できる統計などを扱っている。コロナ禍になり学外者の大学への立ち入りが難しくなったことから、令和元（2019）年度以降は中止せざるを得なくなった。令和４（2022）年度は県外講師によるオンライン研修として「図書館システム研修」を開催した。

(5) その他の研修／拡大講座

少人数の実務的な研修のほか、多人数が受講できる講演会形式の研修を適宜開催している。その時々の図書館界の傾向や、時代の流れに応じ、様々なテーマを取り上げ、これまでに取り上げたテーマとしては次のようなものがある。テーマ例：ソーシャルメディアの活用、地域連携、デジタルアーカイブ、著作権、選書。

愛知県公立図書館長協議会の研修事業

愛知県公立図書館長協議会事務局　大平奈美

■愛知県公立図書館長協議会

愛知県公立図書館長協議会（以下、当協議会）とは、愛知県内の公立図書館相互の連絡を密にし、図書館活動の推進を図ることを目的に昭和43（1968）年４月１日に設立された、県内の公立図書館長で構成される組織である。県内公立図書館間の連絡調整のほか、全国公共図書館協議会との連絡協力、図書館職員の研修会、県内公立図書館の実態調査の実施を主な活動としている。

■愛知県公立図書館長協議会の研修について

当協議会が実施する研修は、公立図書館員としての知識や技術の習得を目的に、公開講座方式の研修にワークショップなど参加型を組み込んだものを主としている。研修委員会によって企画されており、例年４回の研修（うち１回は愛知図書館協会（主に児童サービス研修）と共催）を開催している。

また、当協議会の主催の年４回の研修とは別に、当協議会の中に設立されたヤングアダルトサービス連絡会（以下、YA連絡会）では、年１回総会と合わせてヤングアダルトサービス（以下、YA）に関する研修を開催している。

■研修委員会について

当協議会の研修については、名古屋市図書館２名、尾張部公立図書館２名、三河部公立図書館２名、愛知県図書館１名の７名および事務局で構成された研修委員会で企画・内容を検討しており、新型コロナウイルス感染症拡大前は愛知県図書館で年１回集合して研修委員会を開催していた。しかし、現在はメーリングリストを活用した会議を随時開催へと切り替えている。

研修を企画する際は、それまでに開催された研修でのアンケート結果や、現在の図書館業界の動向を踏まえつつ検討している。

■新型コロナウイルス感染症拡大後

新型コロナウイルス感染症拡大後は、集合しなくても受けられるような研修方法を模索し、通常の対面での開催と合わせて講師によるコメントや添削、音声・動画配信を積極的に取り入れて開催している。しかし、この状況だからこそ他館の職員との情報交換をしたいと要望もあり、感染対策を十分に行った上で対面でのワークショップ等を取り入れることも行った。

回	テーマ・開催方法等
○令和２年（2020年）	
第１回	「コロナ情報共有研修」 各館で振り返りを行い、その内容を共有、講師がメールで総評やコメントを付与
○令和３年（2021年）	
第１回	新任職員向け研修（動画配信）
第２回	コロナ情報共有研修：ワークショップ（対面）
第３回	コロナ情報共有研修：シンポジウム （リアルタイム配信・録画配信）
YA	POP作成実習（対面・録画配信）
○令和４年（2022年）	
第１回	新任職員向け研修・ワークショップ（対面・録画配信）
第２回	危機管理（利用者対応）（事前に事例を募り対面・録画配信）
第３回	アフターコロナの電子書籍（対面・録画配信）
第４回	著作権（公衆送信）（対面・録画配信）
YA	YAのリアル（対面・リアルタイム配信・録画配信）

近年の当協議会研修

■YA連絡会の研修

愛知県内のYAを担当する職員の情報交換を目的として設立された会であり、名古屋市図書館１名、尾張部公立図書館１名、三河部公立図書館１名、愛知県図書館１名および事務局で構成される委員によって研修の企画・運営をしている。

研修では、YAに関する講義や事例発表の他、職員同士の横のつながりを作るための情報・意見交換の場を例年必ず設けていた。また、県内の様々な公共図書館を会場に開催し、現地の見学も取り入れて開催していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、近年は愛知県図書館での講義・事例発表を中心とした研修会となっている。

碧南市民図書館で開催された
平成24年度のYA連絡会（情報交換）

■今後の展望

愛知県内の公立図書館が抱える状況は様々であり、図書館に求められるサービスの内容も、各図書館からの研修の要望も異なる。できる限りどの図書館にも有用なテーマを検討し、演習やワークショップなど、参加型の研修をより一層取り入れていきたい。

地区別団体の研修

研修テーマ今・昔
―尾張部公共図書館連絡協議会―

半田市立図書館　田村元成

尾張部公共図書館連絡協議会は、名古屋市を除く尾張地域の公共図書館で構成されている。現在、33市町村の図書館（室）が会員となっており、東尾張、西尾張、知多の３ブロックで役員などの輪番制を採っている。

資料を見てみると、昭和58年に規約が整備されたようだが、実際には昭和50年から役員が決められており、52年からは定例会という形でテーマを決めて研修会を開催している。

規約の第４条に「協議会は、構成員の連絡を密にし、図書館活動の発展を図ることを目的とする。」とされている。当時の研修会のテーマは、複写サービスや幼児読書指導、郷土資料の収集、分類法の改定など、図書館サービスの内容に関わるものが多く、自館だけでは解決できない課題について他館と情報交換し課題解決につなげるためのものになっていたようである。その後、合理化の流れが図書館にも影響を与えることとなり、図書館システム（コンピュータ）や運営方法についてのテーマが散見されるようになる。

通信技術の進歩によりホームページの閲覧やメールによる情報収集が容易になってきてからは、情報交換会は減少し、かわりに図書館運営や関連法、また、地域の歴史や文化などについて、講師をお願いし講演会形式で行うことが増えてきた。図書館に関わるテーマの講演会は、知識の習得や課題解決につながるものとなっており、地域に関連するテーマのものは、それぞれの地域にそれぞれの歴史や文化があるということを改めて知る機会となっている。ちなみに今年度の講演会テーマは、「図書館の統合≒図書館サービスの再編と創出」、「著作権法改正に伴う図書館等公衆送信サービスについて」、「『本＋むかし話』ｘ図書館ｘ博物館」だった。

コロナ禍の下では、集合形式での開催を中止したこともあったが、当番館の工夫により書面開催とするなど、途切れさせることなく開催を続けることができた。これからも、尾張部の図書館活動の発展のため、可能な限り研修会が開催されることを望む。

三河公立図書館協議会の研修事業について

田原市中央図書館　是住久美子

三河公立図書館協議会は、三河地域の15市町の公立図書館が加盟している。主な活動内容としては、年２回の理事会と年１回の幹事会のほか、各館会員相互の資質の向上を図ることを目的に年２回の研修会を実施している。また、先進図書館視察研修会として、理事会において視察先図書館を検討・選定し、翌年に視察研修を実施している。令和元年度に塩尻市の市民交流センターと図書館の複合施設である「えんぱーく」の視察研修会を実施したが、翌年以降はコロナ禍により中止となっている。

各研修会の内容は、担当館が社会情勢やニーズ・課題に合わせてテーマと講師を選定し、各館へ通知を行い、当日の運営まで行っている。平成30年度から令和４年度までの５年間の研修内容一覧を表に記す。令和２年度と３年度はコロナ禍により研修会も中止となっている。令和４年度の第１回研修会は、７月27日に田原市の田原文化会館を会場に筆者が講師となり「図書館とまちづくり」をテーマとして開催した。会場参加８名、オンライン参加３名の合計11名が参加した。第２回研修会は、12月１日に知立市図書館を会場に、17名の参加者を得て、愛知県図書館の東まゆ美氏を講師にお迎えし「著作権の基本」をテーマに開催した。今後も加盟館職員の資質向上や市民サービスの改善に向けて様々な研修会を実施していく予定である。

	第１回研修会 テーマ（担当市町）	第２回研修会 テーマ（担当市町）	視察研修会 視察先図書館
令和 ４年度	「図書館とまちづくり」（田原市）	「著作権の基本」 （知立市）	中止
令和 ３年度	中止	中止	中止
令和 ２年度	中止	中止	中止
令和 元年度	「本の補修（実習）」 （幸田町）	「新城市若者議会による図書館リノベーション」「愛知県図書館におけるYA世代へのアプローチ」「YA世代に向けた自館での取り組みについて（グループワーク）」（新城市）	塩尻市立図書館 （えんぱーく）
平成 30年度	「初心者向けレファレンス概論」 「アンフォーレについて」（安城市）	「愛知県図書館のサインの改善について」 （岡崎市）	岐阜市立中央図書館（みんなの森ぎふメディアコスモス）

表：研修内容一覧（平成30年度～令和４年度）

大学図書館団体の研修

東海地区大学図書館協議会の研修

名古屋大学附属図書館　小嶋悦子

昭和25年の発足から70年以上の歴史がある東海地区大学図書館協議会は、東海地区（岐阜・静岡・愛知・三重）の国公私立の大学図書館（令和４年12月現在の加盟館は84館）から成り、東海地区の大学図書館の発展と職員の教養・技術の向上及び相互の親睦を目的として、総会・研究集会、研修企画、協議会誌の発行やサービス面での相互協力を行っている。

協議会では毎年度１回、加盟館職員向けの研修を企画実施しており、研修の記録は協議会誌に掲載しウェブサイトでも公開している。

研修は対象別に２種類あり、加盟館の職員なら誰でも希望に応じて参加することができる研修会と、経験年数が概ね３年未満の初任職員を対象とした基礎研修とを交互に開催する形を取っている。

研修会の会場館は加盟館の持ち回りとし、令和４年度は名城大学附属図書館主催により『大学図書館の活動を可視化するデータ活用』をテーマとした研修会を、研修動画のオンデマンド配信により実施する予定である。

企画は前回の参加者アンケートの内容も踏まえて小委員会で検討し運営委員会で決定する。研修会のテーマはさまざまであるが、本の補修や広報のノウハウといった、加盟館の規模を問わず広く役立てられることを意識した実践的な研修を多く行ってきた。

いっぽう、初任職員向けの基礎研修は名古屋大学で隔年開催している。国立大学図書館協会東海北陸地区協会との共催により、北陸地区（富山、金沢、福井）からも参加がある。令和３年度のプログラムは、同志社大学の佐藤翔准教授による基調講演のほか、加盟館職員による講義と参加者のグループワーク、発表、講評とし、オンラインで短時間ながら参加者同士のコミュニケーションの機会を設けた。

令和２年度以降の研修はすべてオンライン開催となり、効率よく研修を受講できるようになったことは加盟館職員から好評であるが、今後は地区としてのまとまりを生かし、オンラインといえど加盟館職員の親睦を深められるような企画の工夫もしていきたい。

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会の活動について

愛知学院大学図書館情報センター　田島俊英

私立大学図書館協会は、私立大学の約９割が加盟しており、東海地区協議会は、愛知、岐阜、三重、三県の加盟館で組織され、加盟館の発展と相互協力を図ることを目的として活動しており、本学においては、運営委員として参画している。

東海地区協議会の活動行事としては、研究会、図書館実務担当者研修会、図書館見学会、学生協働フェスタがあり、研究会と学生協働フェスタは毎年開催するが、図書館実務担当者研修会と図書館見学会は、原則隔年開催である。また、活動記録として機関誌「館灯」も刊行しており、J-STAGE上でも公開している。

研究会は、加盟館からのアンケート結果を参考にテーマを決めている。テーマと講師が決定した段階で、加盟館からの事前質問を受け付け研究会の場で答えてもらうようにもしている。講演後は、少人数グループに分かれディスカッションを行い、参加者の前で発表するのが一連の流れである。事後アンケートにおいては、毎年とも概ね好評を得る結果となっている。

図書館実務担当者研修会はテーマを３つ設定し、各グループでワーキングを行う。運営委員は、担当するグループの講師を依頼し、研修内容を提示し、研修会当日の進行等を務める。ワーキングの内容はテーマにより様々で、それぞれ課題に取り組み、最後にその結果や成果物等を発表し、講師の講評を受けて終了する。

図書館見学会は、新しく竣工した図書館や画期的な取り組みを実施している大学図書館を主に行っている。各施設を見学し、図書館員からの話を聞くことで、自館の運営などに参考になったという意見が多数ある。

学生協働フェスタは、大学図書館の運営に学生が関わることが増え、大学を越えて学生サポーター同士の連携活動の活性化を促すための企画である。企画から司会進行まで学生が主体となり開催している。

近年の大学図書館は、専任職員の減少や予算削減などの問題を抱えており、東海地区に限らず全国的に活動のスリム化を検討する動きが現在行われている。しかし、この活動があることで、他大学との交流が生まれ相互協力できる関係を構築しているため、今後も大学図書館の活性化に微力ながら協力を続けていきたい。

会員館最近の話題から

図書館ファンミーティングについて

田原市中央図書館　是住久美子

令和４年９月10日、田原市中央図書館の開館20周年記念行事の一環として図書館ファンミーティングを開催した。このイベントは佐藤尚之著『ファンベース』の考えを元に企画したものである。ファンベースとは、ファンを大切にし、ファンをベース（土台、支持母体）にして中長期的に売り上げや価値を上げていく考え方である。

内容は、バックヤードツアーと見計らい図書による選書体験、そしてスタッフラウンジでお茶を飲みながら図書館の好きなところを語り合うトークの３部構成で、２時間のプログラムであった。普段入ることができない場所に入れる点に惹かれて参加したという人や、どんな人が集まるのか興味があったという人もいた。図書館の好きなところとして、職員の対応を挙げる参加者が多かった。優しく親しみやすい、一緒に本を探してくれるという意見があった。日常の生活の中で、図書館へ来館する体験自体を大切な時間と認識しているという意見もあった。ファン同士が語り合い、共感している様子であった。職員の立場としては、ファンの意見を聞くことで、大いに勇気づけられモチベーションを高めることができた。また、図書館の新たな価値を発見することができた。

人口減少、財政難など、右肩上がりの成長を追求することが難しくなってくる中で、ベースとなるファンを大切にすることで新たなファンを生み出し、中長期的に図書館の価値を高めていくこともできるのではないかと考えている。

ファンミーティングの様子

図書館を応援する仕組みづくり

―「あいちBookサポーター」制度について―

愛知県図書館資料支援課　森下琴江

■制度の概要　～あなたの「想い」が本になる～

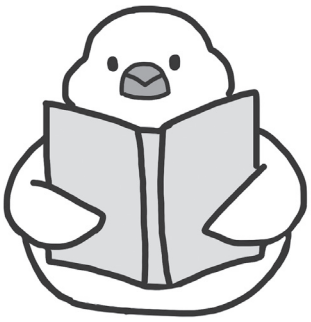
2022年２月から「あいちBookサポーター」と名付けて、当館が提案する本や図書館用品（紙芝居舞台など）を、お申し込みくださった方が購入して寄附いただく制度を創設した。提案する図書や物品は、寄附者の希望分野に添って予定の金額範囲内で、主題担当の司書が選書を行う、オーダーメイドの寄附制度である。地方自治体への寄附にあたるため、寄附者は税金の控除を受けられ、また金額に応じて館内ツアーなどの特典がある。団体、個人を問わず受付しており、企業の社会貢献活動などを想定して運用している。

■創設の経緯

以前から図書を寄贈していただく仕組みはあったが、選書方針に合致していない場合は受け入れることができない。予算状況が厳しい折、図書館を応援していただく仕組みづくりを考える中で、先行して2016年からスタートしていた名古屋市立図書館の「なごやほんでキフ倶楽部」を参考に、当館を応援していただく新たな仕組みとして、図書館側が選書して寄附してもらうこの制度の創設に至った。

■制度開始後の状況

2022年12月末現在で、団体（企業など）から６件、個人から８件のお申し込みをいただいた。「アンパンマンの紙芝居の買い替えと紙芝居舞台」や、「読書が困難な方のために大活字本と読書支援機器（プレクストーク）」を提案して御寄附いただくなど、当館の「サポーター」としてお力をいただいている。寄附いただいた図書（物品の場合は写真）は、当館１階Yottekoに専用コーナーを設け、顕彰のために１か月程度展示をしている。



文鳥のポタ
(イメージキャラクター)
広報で活躍中

PICK UP

図書館振興事業
図書館講演会「あいちの歴史資料をさぐる」
2022/12/17

当協会では、平成24（2012）年度に初めて図書館振興事業として一般市民向けの図書館講演会を開催し好評を得た。以降隔年で一般向けの催しを行っていたが、令和３（2021）年度は新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い開催を見送ったため、令和４（2022）年度に順延となった。

今年度は愛知県政150周年の連携イベントとして、愛知県図書館と共催で「あいちの歴史資料をさぐる」と題し、講演会を開催した。愛知県立大学教授・丸山裕美子氏による「徳川家康の典籍蒐集と尾張藩の古代史研究」、県史編さん室で長く愛知県史の編さんに携わった加藤規博氏による「愛知県史の話　―なぜ三河に殿様がいっぱいいたのか―」の２本の講演を行った。この講演会は、会場の密を避け多くの人が参加できるよう、オンラインでの同時配信を行った。

丸山教授の講演では、徳川家康が京都の公家から積極的に有職故実についての情報収集を行い、諸家からの献上や書写により典籍の蒐集を行ったことや、尾張藩では藩主・藩士とも古代史研究に力を入れていたことが語られ、家康から続く尾張藩の研究熱心な家風が多くの史料を現在に伝えることになったという歴史を感じさせる講演となった。

加藤氏の講演では、県史編さんとそのための資料収集についての説明と共に、県史に掲載された資料からわかる近世三河の領地支配の変遷について語られた。転封や分知（相続時の領地分割）などで領地が細分化していった過程や、複数領主により支配される相給など、当時の領地支配の様子が語られた。また、県史収集資料の公開についても紹介された。

最後に両氏による質疑応答があり、会場から出た質問にお答えいただき講演会は幕を閉じた。

愛知図書館協会　会勢
（2023年２月1日現在）

施設会員		93
	公共図書館	64
	専門図書館	4
	大学図書館	22
	その他	3
個人会員		71
賛助会員		9
計		173

事務局日誌（2022年３月～2023年２月）

R4/ 3/2	令和３年度第２回研修委員会（ウェブ会議）
4/13	令和３年度会計監査 （愛知県図書館　以下県図）
4/15	令和３年度第２回理事会（県図）
5/10	令和４年度総会（書面決議）
5/24	第１回理事会（県図）
6/8	第１回研修委員会（ウェブ会議）
6/16	児童サービス研修（特別講座）（県図）
6/23	児童サービス研修①（県図）
7/8	児童サービス研修②（県図）
9/7	危機管理研修（県図） 愛知県公立図書館長協議会と共催
9/9	児童サービス研修③（県図）
10/6	レファレンスサービス研修（演習）開始 （通信講座として開催：～ 12月上旬まで） オンライン講義：11/22、11/29、12/ 1
10/16	レファレンスサービス研修：拡大講座（県図）
10/27	児童サービス研修④（県図）
11/4	ヤングアダルトサービス研修（聴講講座）
12/9	児童サービス研修（ステップアップ：紙芝居） （県図）
12/17	図書館講演会「あいちの歴史資料をさぐる」 （県図） 愛知県図書館と共催
R5/ 2/2	児童サービス研修実行委員会（県図）
2/15	図書館システム研修（オンライン）
2/17	第２回研修委員会（ウェブ会議）